



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	巻頭言
Author(s)	狩俣, 繁久
Citation	琉球大学大学教育センター報 = University Education Center Bulltein(21): 1-1
Issue Date	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44525
Rights	

巻頭言

狩俣 繁久（グローバル教育支援機構・開発室長）

いま、郵便や宅配の選別と振り分けなどの単純労働だけでなく、さまざまな分野で機械が人間に代わって仕事を肩代わりする時代になっています。ポケットサイズの多言語翻訳器も安価で市販されています。自動車の自動運転も近々実用化されて売り出されるでしょう。われわれはすでに自らの知的作業の一部を機器に頼っています。かつて電卓の登場によって日常生活から算盤が消えました。暗算や筆算の能力は落ちたのではないのでしょうか。パソコンやスマホを利用すれば、様々な情報にアクセスし、それを引き出して活用できます。以前に比べるとたくさんの知識や情報を記憶する必要は小さくなり、この先、計算する、検索するといった個々の部分での機械（AI）への依存度はさらに高くなるでしょう。

2017年4月1日、将棋名人と国産の将棋ソフトPONANZAの対局があり、将棋名人がPONANZAに負けるというニュースが流れました。1997年にはチェスの世界チャンピオンがIBMに負けるというニュースもありました。人間は、将棋や囲碁やチェスのような知的な領域でも、機械に敵わなくなってきました。それらのことを機械に可能にさせているのは、機械が無限とも思える可能性を短時間で処理して答えを見つけ出すための学習をつづける「機械学習」と「ディープラーニング」です。

人は機械に負けてしまうのでしょうか。機械について専門外の私はそうではないだろうと楽観視しています。赤ちゃんが成長して過程で身につける知的能力や身体的能力の高さには目を見張るものがあります。総合的でバランスのとれた創造的な学習能力はディープラーニングに勝るものです。

極めて複雑な存在の人間を相手に、刻々と変化する社会の現場で見聞きして得た情報を批判的に取捨選択し、適切かつ有効に活用することがこれまで以上に求められます。大学教育における能動的学習や多様な人々との協働学習は、これからの社会で生きていくうえで必要な力をつけさせるためのものです。

グローバル教育支援機構は、2019年4月1日に共通教育運営部門と授業支援部門を統合して大学教育支援部門を立ち上げます。分野横断型汎用能力に係る学修成果の達成目標の設定および評価に関する業務を担うとともに、共通教育の企画、調整およびカリキュラム編成、授業の実施・支援および改善、学修成果の評価および教育の改善等を、各学部、研究科と連携して推進します。

創造的でバランスの取れた総合的な力をもった人材を養成する場としての琉球大学の果たすべき役割は、今まで以上に大きくなります。グローバル教育支援機構も各学部、研究科と連携していくことが求められています。